

## 事業概要シート

施策	0201	幼児教育の充実	≪≫の金額 現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計 ※補正予算要求時は今回の補正予算額を除く ※次年度予算要求時は次年度繰越額を除く
事業名	旧園舎解体事業	その他の見直し	予算額 7,802 千円 ≪ 11,664 ≫千円
事業期間	昭和29年度 ~		財源内訳
根拠法令 要綱等	学校教育法		
			国庫支出金 千円 県支出金 千円 地方債 千円 その他 4 千円 一般財源 7,798 千円

**【事業の目的・概要・対象】**

《目的》

平成31年3月の松原幼稚園閉園後、令和4年度まで大村幼稚園、西大村幼稚園、福重幼稚園の3園を市立幼稚園として運営していたが、各園の周辺地域において民間の幼児教育施設が整備される中、市立幼稚園の入園希望者が年々減少している状況を受けて、令和4年度末をもって全ての市立幼稚園を閉園することとした。このため、既存の幼稚園運営事業を見直し、跡地の活用を図るため現存する市立幼稚園の園舎を順次解体していく。令和5年度においては以下の園舎の解体設計業務を委託する。

《概要・対象》

- ①大村幼稚園  
大村市玖島1丁目61番地  
昭和48年建築
  
- ②福重幼稚園  
大村市福重町326番地1  
昭和54年建築
  
- ③鈴田幼稚園  
大村市大里町1546番地1  
昭和53年建築

解体スケジュール（予定）

		令和5年度	令和5年度補正もしくは 令和6年度	令和7年度
大村幼稚園 福重幼稚園 鈴田幼稚園	解体設計	○		
	解体工事		○	
西大村幼稚園	解体設計 解体工事	西大村幼稚園は、西大村中学校体育館等の建替え時の仮倉庫に使用する予定であるため、解体スケジュールは未定		

**【背景】**

社会情勢の変化により幼児教育・保育のニーズが多様化される中で、第2期おおむら子ども・子育て支援プランにおいて市立園の役割について見直しを行った。同支援プランでは、市立園の周辺地域での幼児教育・保育の受け皿が確保できている状況を踏まえ、市立園については段階的に縮小を行い、その役割を市内全体の幼児教育・保育の質の向上を図ることとしている。現存する市立幼稚園の園舎は、いずれも昭和50年頃に建設されたもので、施設の老朽化が進んでいるため、計画的に順次解体を行い、跡地の活用を図る。  
 なお、大村幼稚園跡地については、放課後児童クラブの建替えを予定している。

担当課	こども未来部こども政策課	課長	内野 一嗣
担当者	日高 友美	問合せ先	0957-54-9100

## 事業概要シート

### 【活動指標】

指標名		単位	R 3 (実績)	R 4 (計画)	R 5 (計画)	R 6 (計画)	R 7 (計画)
①	計画値	件					
②	計画値	回					

### 【成果指標】

指標名		単位	R 3 (実績)	R 4 (計画)	R 5 (計画)	R 6 (計画)	R 7 (計画)
①	市立幼稚園園舎解体設計	箇所			3	-	-
②	計画値						

### 【予算・決算】 (千円)

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	合計
事業費	0	0	11,664	7,802	0	0	19,466
国庫支出金							0
県支出金							0
地方債							0
その他			1,625	4			1,629
一般財源			10,039	7,798			17,837
人件費	0	53,462	53,358	1,454	0	0	108,275
職員(人)		7.20人	7.20人	0.20人			14.60人
時間外勤務(h)		552h	500h				1052h
会計年度任用職員(人)							0.00人
フルコスト	0	53,462	65,022	9,256	0	0	127,741

妥当性 (市の関与)	市立幼稚園の園舎解体は、教育委員会の事務を補助執行する市が行うことは妥当である。
有効性 (施策貢献度)	市立幼稚園の園舎はいずれも老朽化が進んでおり、他の活用が望めないことから、園舎を解体することは土地を活用する観点から有効性は高い。
効率性 (コスト)	老朽化した園舎は活用方法がないため、園舎解体後に教育委員会に返還し、他の用途に活用させる。

1次評価	担当者意見のとおり
2次評価	1次評価のとおり